

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

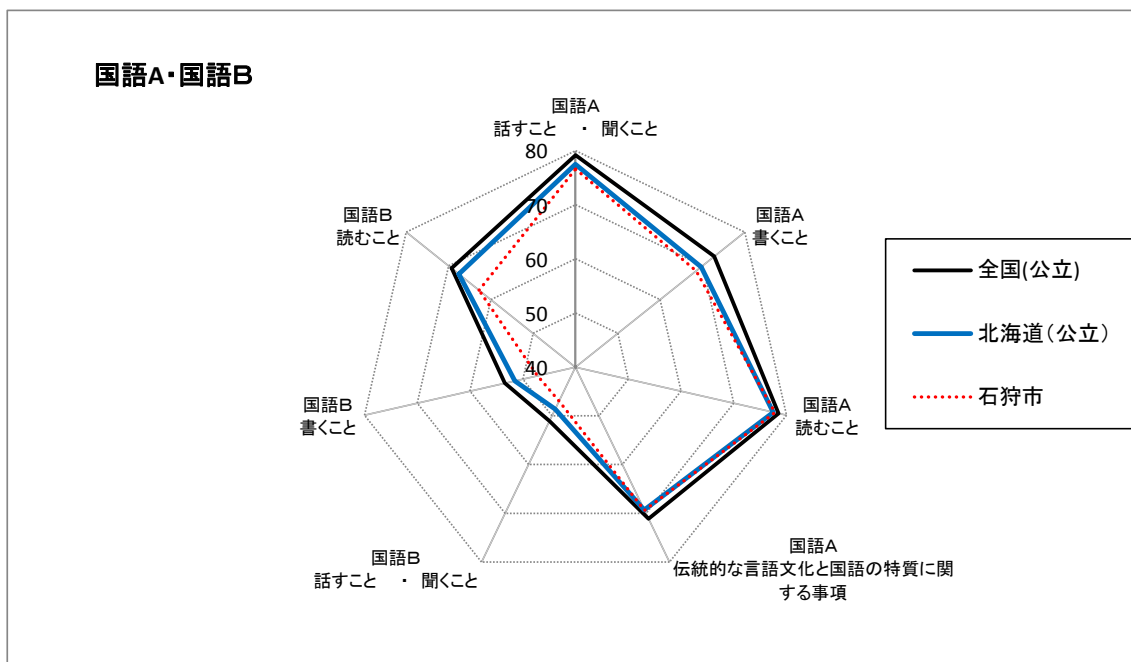
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	10.9問/15問	72.9%	5.8問/10問	57.8%
全道(公立)	10.7問/15問	71.0%	5.6問/10問	56.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆	○								☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語Aは全道平均と同様で、全国平均とはほぼ同様（下位）の結果となりました。昨年度より差が大きく縮まりました。
- ◇ 国語Bについては全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中で、国語Aでは「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全道を上回り全国との差が縮まりました。
- ◇ 国語Bでは「書くこと」「読むこと」の領域で全道・全国との差が広がりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、国語Aで選択式・短答式が全道と同様、全国とはほぼ同様（下位）の結果となりました。
- ◇ 国語Bで選択式・記述式が全道よりやや低く、全国より低い結果となりました。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる次の問題で構成されています。
- ・ 目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけながら話し合う。
- ・ 書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。
- ・ 目的に応じて、図と表とを関係づけて読む。
- ・ 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。
- ・ 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める。
- ・ 設問数は15問です。

【各領域の傾向】

- ・ 「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道と同様で全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「書くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・ 「読むこと」の領域は、全道・全国と比べ同様の傾向を示しています。
- ・ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と比べ同様に、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1-1	漢字を読む (今日は全国的に快晴だ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.3%	82.8%	79.3%
3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する	書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する	書くこと	63.2%	62.7%	67.4%
5	公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む	読むこと	93.6%	93.2%	93.1%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
4	委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する	書くこと	73.7%	76.6%	78.2%
8-2	ローマ字を書く (あさって)	平仮名で表記されたものをローマ字で書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	40.1%	39.0%	41.8%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 目的や意図に応じて事柄を整理して書く指導に当たっては、取材した後で目標と活動内容が合っているかどうかを判断し、足りないところがあれば追加取材ができるように指導していく必要があります。
- ・ ローマ字で書いたりローマ字で表記されたものを正しく読む指導に当たっては、該当学年での学習に留まらず、繰り返し読んだり書いたりすることが大切です。その際、児童に必要性が感じられるように、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなど、ローマ字が使われている日常の場面と結びつけながら指導することが大切です。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・インタビューメモを基に、話し手の意図を捉えながら聞いたり話の展開に沿って質問したりする。
- ・目的や意図に応じ、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して活動を報告する文章を書く。
- ・目的に応じて、複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながらかく。
- ・設問数は10問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」「読むこと」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1二	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	話すこと 聞くこと	47.9%	48.1%	51.1%
3一	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	読むこと	72.3%	75.1%	77.2%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	話すこと 聞くこと	45.4%	47.0%	50.4%
2一	「早ね早起き」活動の結果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する	グラフを基に、分かったことを的確に書く	書くこと	38.4%	41.2%	43.4%

〈指導の改善にあたって〉

- ・話し手の意図を捉えながら聞いたり、話したりする指導に当たっては、日常における会話や学習活動での話し合い等において、相手の話を受けて返すという態度を意図的に育てていく必要があります。また、自分の話す・聞く活動を振り返り、よかった点や改善すべき点を明らかにし、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと関連させながら指導していく必要があります。
- ・グラフを基に分かったことを的確に書く指導に当たっては、国語科だけでなく、社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現できるように指導していくことが大切です。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の58.5%、全国の58.3%に対して石狩市は50.7%で、全道より7.8ポイント、全国より7.6ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.7%、全国の91.3%に対して石狩市は87.7%で、全道より4.0ポイント、全国より3.6ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.9%、全国の80.7%に対して石狩市は75.3%で、全道より5.6ポイント、全国より5.4ポイント低くなっています。

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

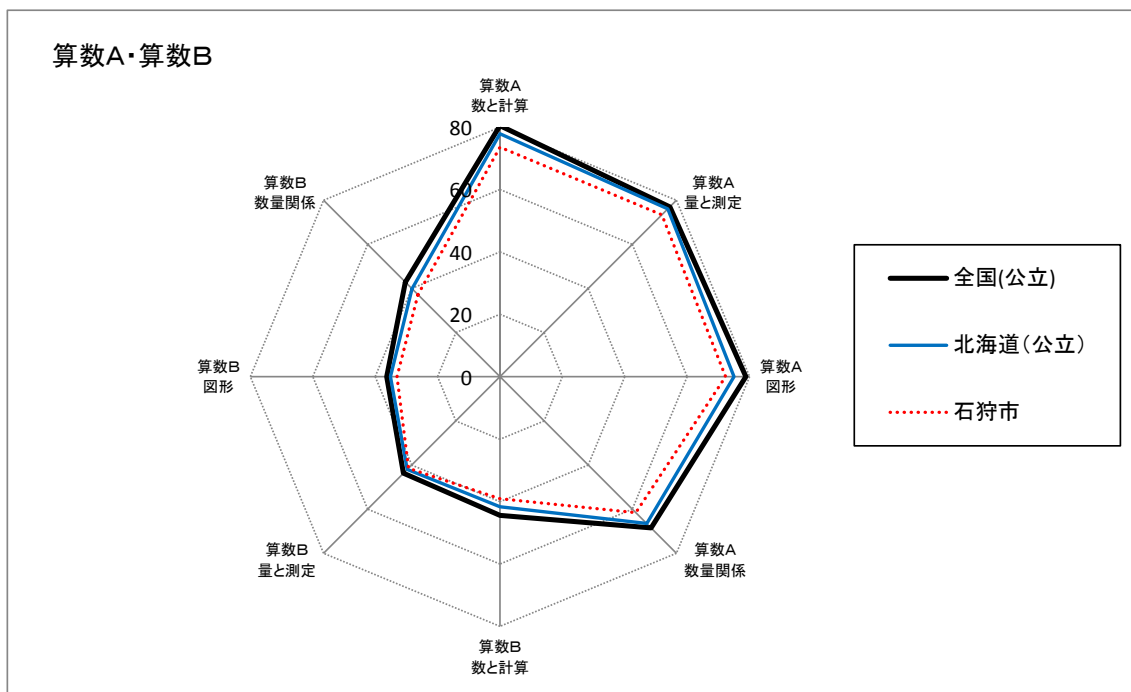
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	12.4問/16問	77.6%	6.1問/13問	47.2%
全道(公立)	12.0問/16問	75.3%	5.8問/13問	44.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆					○				☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域別正答率グラフ □



□ 算数科の概要 □

- ◇ 算数Aの平均正答率は、全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 算数Bの平均正答率は、全道平均とほぼ同様（下位）で、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」領域の中で、算数Aで「量と測定」が全道平均とほぼ同様（下位）で、全国平均よりもやや低い結果となりました。
- ◇ 算数Bでは「量と測定」が全道平均と同様で、全国平均とほぼ同様（下位）の結果となりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、算数Aで選択式・短答式が全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 算数Bの選択式・記述式での正答率は、全道とほぼ同様（下位）の結果となりました。

算数 A (主として「知識」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。
- ・除法の性質に基づいて、小数の計算を整数の計算に置き換える。
 - ・単位量当たりの大きさを求める式を書く。
 - ・直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ。
 - ・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合が、一番大きいものを選ぶ。
 - ・設問数は16問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べやや低い傾向で、全国より低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国よりやや低い傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向にあります。
- ・「数量関係」の領域は、全道と比べやや低い傾向で、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3 (1)	二つの数の大小関係を表す不等号を書く	不等号を理解している	数と計算	95.8%	96.7%	96.7%
4	8 m ² に14人座っているシートについて、1 m ² 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	量と測定	70.5%	72.2%	72.0%
6	4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ	図形の構成要素に着目して、図形を構成することのできる	図形	74.5%	78.7%	79.6%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (3)	18 ÷ 0.9を計算する	小数の除法の計算をすることができる	数と計算	64.4%	72.7%	77.7%
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ	直方体における面と面の位置関係を理解している	図形	70.0%	71.3%	78.0%
9 (2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している	数量関係	42.3%	48.7%	50.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・除数が1より小さい小数の割り算の指導に当たっては、日々の授業の中で繰り返し答えを見積ったり、予想させたりすることが大切です。
- ・立体図形の指導に当たっては、立方体や直方体の面に三角定規を当て、面と面の平行や垂直な関係を調べたりする活動を通して理解させる必要があります。
- ・割合の学習で比較量や基準量を求める指導に当たっては、問題を丁寧に読み解き、図や数直線に表して、分かりやすく捉えることができるように指導していく必要があります。割合が日常生活の様々な場で用いられていることを気付かせ、理解させていく必要があります。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する。
- ・示された式の中の数値の意味を、ほかの数値や演算と関係付けて解釈し、それを記述する。
- ・グラフから読み取れる情報を根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する。
- ・除法の式の形と関連づけ、角の大きさを基に、その式の意味を記述する。
- ・設問数は13問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	1辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる	数と計算 量と測定	91.2%	91.8%	92.6%
4 (1)	学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる	量と測定 数量関係	46.9%	47.0%	48.3%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (3)	目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる	数と計算	13.5%	13.6%	15.6%
4 (3)	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる	数量関係	21.4%	22.7%	24.9%
5 (1)	示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	数と計算 量と測定 図形 数量関係	4.0%	5.4%	6.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・式の中の数値の意味を解釈し、そのことについて記述する指導に当たっては、日常生活の事象と関連付けて考えさせる場を設けることが大切です。
- ・グラフを読み取り、その根拠を言葉や数値を用いて記述させる指導に当たっては、複数の折れ線グラフを示し、比較する場面を取り上げ、変化の大きさや増え方の大きさの違いについて考察する場を設けることが大切です。
- ・図形と式を関連付けて式の意味を説明させる指導に当たっては、式についての意味を児童同士で再確認したり、ノートに記述し整理させながら説明できる場を設けることが必要です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の64.1%，全国の66.0%に対して石狩市は59.3%で、全道より4.8ポイント，全国より6.7ポイント低くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.4%，全国の91.9%に対して石狩市は88.4%で、全道より3.0ポイント，全国より3.5ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.8%，全国の80.2%に対して石狩市は71.5%で、全道より6.3ポイント，全国より8.7ポイント低くなっています。